

授業コード	10407	科目名	宗教と社会		担当者					
		副題	文化人類学の視点から		開講期	後期	単位数	2	DP対応	1,3
【授業概要】										
宗教(世界宗教から各地の伝統的な民間信仰まで、また現代の疑似科学やカルトまで)を、文化人類学の視点から、個人を社会に組み上げていく文化的な仕組みとしてとらえていく。またそのような仕組みを明らかにするため、文化人類学が作り出してきた様々な理論を解説していく。										
【到達目標】										
宗教のあり方を社会的な側面からとらえるための諸理論を説明することができる 社会のあり方を宗教的な側面からとらえるための諸理論を説明することができる。 それらの理論を使い、様々な文化事象を分析することができる。										
【授業方法・計画】										
・レジュメと板書、および映像資料を用いながら、講義形式で進める。 ・私自身のニューギニア調査など遠い異文化の事例と、ポップカルチャーなど身近な自文化の事例を同等に取り上げ、同じ理論で分析していくことで、それらが地続きの世界の事象であることを示したい。										
第1回	授業ガイダンスおよびレポート課題発表									
第2回	初期理論の問題点1:一神教における神概念をめぐって									
第3回	初期理論の問題点2:道教、仏教、ヒンドゥー教をめぐって									
第4回	初期理論の問題点3:呪力マナをめぐって									
第5回	機能主義1:妖術、妖怪、地獄の社会的機能									
第6回	機能主義2:神話研究と機能主義の限界									
第7回	構造主義1:レヴィ=ストロースの神話分析									
第8回	構造主義2:トーマズ・ペリヤールの分析、世界観と構造									
第9回	境界論1:ダグラスの境界論									
第10回	境界論2:異界への文化的想像力									
第11回	境界論3:リーチの境界論、ターナーの境界論									
第12回	治癒儀礼論1:象徴の操作									
第13回	治癒儀礼論2:コミュニティの修復としての「癒し」									
第14回	治癒儀礼論3:個人を回収していく「物語」									
【準備学習・復習】										
・この授業のレジュメは、教科書・参考書の代わりになるよう十分な情報量を持たせている。自宅でもう一度読んでおくこと(200分)。 ・授業内で紹介した書籍も、できるだけ実物を図書館で借りて読んでみてほしい。										
【課題に対するフィードバックの方法】										
・希望者には、採点終了後の期末レポートにコメントを入れて返却する。										
【受講上のアドバイスおよび注意事項】										
・第1回授業でレポート課題を説明する。欠席しないこと。 ・広く文化全般に関心がある人は、前期「文化人類学」もあわせて受講することを勧める。 ・仏教やイスラム教、ヒンドゥー教、道教など世界宗教に関心がある人は、前期「アジア文化論」も合わせて受講することを勧める。										
成績評価方法	期末レポートで評価する(100%)。レポート課題とともに、授業の理解度を測るために設けた3つの採点ポイントも公表する。その合計点で合否および成績をつける。									
教科書	用いない。資料集も兼ねた詳細なレジュメを毎回配付する。									
参考書	参考になる書籍は授業内で紹介していく。									
CB0154(1年生) CC1112(2・3年生)		授業に関連する実務経験				なし				